

額田王、近江国に下る時に作る歌、
井戸王の即ち和ふる歌

一七番

味酒 三輪の山 あをによし 奈良の山の
まに い隠るまで 道の隈 い積もるまでに
ばらにも 見つつ行かむを しばしばも 見放
む山を 心なく 雲の 隠さぶべしや

反歌

一八番

三輪山を 然も隠すか 雲だにも 心あらなも
隠さぶべしや

一九番

綜麻かたの 林の前の さ野榛の 衣に付くなす
目につく我が背